

実践のまとめ（3学年 社会科）

田上町立田上中学校 教諭 佐藤 亮介

1 研究テーマ

主体的に考え、工夫して表現する生徒の育成

～資料をもとに根拠を明らかにして説明する活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）では、「社会的な見方・考え方」を働かせ、国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することが求められている。公民的分野の「見方・考え方」とは、「政治や法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）」である。公民的分野の目標（2）では、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断する力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」と述べられている。そのためには、現代社会の課題を生徒が自分事として捉え、主体的に解決していこうとする活動を仕組む必要があると考えた。これらの観点から自分自身のこれまでの授業を振り返ると、次の2点が課題である。

1点目は、生活経験の乏しい生徒が多く、現代社会の課題を自分事として捉えることが難しいことである。2点目は、自分の考えに自信がもてず、他者に考えを伝えることに消極的な生徒が多いことである。

以上の2点から本研修では、「主体的に考え、工夫して表現する生徒の育成～資料をもとに根拠を明らかにして説明する活動を通して～」をテーマとし、「日本の選挙制度とその課題」の学習を通じて授業実践を行う。

(2) 研究テーマに迫るために

① 学習内容を「比較・評価」する場面の設定

「深い学び」に繋げるために、単元で新たに学習した内容と既習事項が「どのように異なるか」「どのように関連しているか」などを考える必要がある。そのため、新たな学習内容と既習事項とを様々な視点（ここでは「対立と合意」「効率と公正」「個人の尊重と法の支配」「民主主義」）から比較し、評価する活動を行う。学習課題である「なぜ、若者の投票率が低いのか」に対し、「投票率が低いことの問題点」「若者が投票する意味」などを様々な視点から捉え、「解決する手段として何が有効か」を考えさせたい。

また、「主体的な学び」に繋げるために、学習課題に対して様々な要因を提示し、その要因について生徒自身に調べ学習を行わせる。生徒自身が調べ、理由を考える中で、学習課題について主体的に考える姿を期待する。

② 意見交流する場面の設定

異なった意見をもった生徒と交流することで、さらに生徒の視点を広げ、「深い学び」に繋げたい。その際、自分で調べた資料を提示させることで、生徒の意見に根拠をもたせ、自信をもって発表できるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

- ① 資料を活用し「若者の投票率低下」の課題を捉え、その解決策について自ら調べた資料をもとに、自分の考えを書くことができた生徒が80%以上いる。 (ワークシート)
- ② 自分の発表や他者の発表を振り返り、「調べた資料(データ)をもとに、考えを書くことができた」の項目で肯定的な振り返りをした生徒が80%以上いる。 (ワークシート)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

私たちの暮らしと民主政治 民主政治と日本の政治 (中学社会公民「ともに生きる」教育出版)

(2) 単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。
- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割について理解している。・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。・選挙制度、選挙の諸課題とその解決策、有権者としての姿勢を理解している。	<ul style="list-style-type: none">・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全時8時間、本時7／8時間）

時	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1時間	単元を貫く課題：民主政治がより良く機能するためには、どのようなことが必要だろうか。		
1時間	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治の基本について理解する。 民主主義、民主政治、独裁政治、直接民主制、間接民主制、多数決の原理	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や評価について知り、学習の見通しをもつ。 民主政治の基本について理解する。 	知識・技能 学習内容について、ノートにまとめている。【観察】
2時間	<ul style="list-style-type: none"> 選挙の意義、日本の選挙制度について理解する。 普通選挙、平等選挙、秘密選挙、直接選挙、小選挙区制、比例代表制	<ul style="list-style-type: none"> 選挙の様子を見たり、投票用紙などを見たりしながら、選挙の意義や日本の選挙制度について理解する。 	知識・技能 学習内容について、ノートにまとめている。【観察】
3時間	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治について理解する。 与党、野党、二党制、多党制、連立政権	<ul style="list-style-type: none"> 日本の政党や政治家の考え、選挙の公約等を比較したりしながら、政党政治の役割について理解する。 	知識・技能 学習内容について、ノートにまとめている。【観察】
4時間	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアと政治の関係性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアの役割、公平性、私たちの取るべき姿勢について考察し、それが世論の形成につながることを理解する。 	知識・技能 学習内容について、ノートにまとめている。【観察】
5時間	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権の拡大の歴史と選挙の課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎なぜ、若者の投票率が低いのだろう。 選挙に様々な課題があることを理解し、なぜ若者が選挙に行かないのかを考える。 	知識・技能 学習内容について、ノートにまとめている。【観察】 思・判・表 学習課題について、予想をたて、その理由を書いている。【ワークシート】
6時間	<ul style="list-style-type: none"> 若者の投票率を上げるための解決策の取組を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎若者の投票率を上げるためにどんな取組が行われているのだろうか。 若者が選挙に行かない理由を資料から1つ選び、その解決策についてタブレット端末を用いて具体的な解決策を調べ、自分の考えを書く。 	思・判・表 自分で調べた資料をもとに、若者の投票率を上げるための取組についてまとめている。【ワークシート】

7 時間 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 若者の投票率を上げるために、様々な取組が行われていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎若者の投票率を上げるための方策と有権者の姿勢の在り方について考えよう。 異なる考えをもつ生徒同士で意見交換をし、有権者としての姿勢を考える。 	<p>態 前時で考えた意見を積極的に相手に伝えようとしている。 【観察】</p> <p>思・判・表 意見交換した後、自分と他者の考えを比べ、改めて自分の考えを書いている。 【ワークシート】</p>
8 時間	<ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、民主政治のために何が大切で、自分が有権者になったとき、どのような姿勢で投票するか考える。 	<p>思・判・表 単元の学習を振り返り、自分の考えを書いている。 【ワークシート】</p>

4 単元（題材）と生徒

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）公民的分野の内容「C 私たちの政治」「(2) 民主政治と政治参加」に基づき構成している。

ここでは身に付ける「知識」として、「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割」「議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること」と示されている。身に付ける「思考力、判断力、表現力」として、「民主政治の推進のためには、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加が必要となること」「国民一人一人が政治に関する関心を高め、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画することについて多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすること」の2点が示されている。

また、選挙については、「選挙が主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であること」「選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、良識のある主権者として主体的に政治に参加することについての自覚を養うこと」と示されている。

3年後に有権者となる中学3年生にとって、近い将来に選挙を通して政治に参加することは他人事ではない。しかしながら、現在の国政選挙や地方選挙において、有権者の投票率が低く、特に若者の投票率が低いことは、これから主権者となる生徒にとって憂慮すべき問題である。若者の投票率が低いことや投票率を上げるための解決策を考える活動を通して、良識ある主権者としての自覚を高めることねらいとして授業を展開していく。

(2) 生徒の実態

質問項目（回答28人）	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
①社会は好きだ	12人	12人	3人	1人
②社会科は、将来、 役に立つと思う	16人	10人	2人	0人
③普段から新聞・ ニュースを見ている	8人	8人	8人	4人

授業を行う3年2組は男子16名・女子14名の30名の学級である。どの教科の学習にも落ち着いて取り組んでおり、協働学習の場面では、互いに教え合いながら課題に前向きに取り組むことができる。しかし、グループ活動での意見交換は活発にできる反面、自分の意見を練り上げ表現する活動では、一部の生徒の考えに頼り、発表をためらう様子も見られる。このことから本実践では、「なぜ、若者の投票率が低いのか」という課題に対し、その原因と考えられる項目とその解決策について自分で選択し、調査を行う。そして、具体的な根拠をもとに自分で理由を考え、その考えに自信をもって表現することを通して、良識ある主権者としての自覚を高められるようにすることをねらいとする。

社会科に対しては、「好きだ」「将来、役に立つと思う」と肯定的に考える生徒が多く、「普段から新聞・ニュースを見る」という生徒も学級の半数以上いる。公民的分野は政治や経済のしくみなど、生徒の実生活に関わる内容や将来の政治参加に関わる内容が多く、地理的分野、歴史的分野の内容以上に自分事として捉え、主体的に学ぼうとする姿勢が期待される。

本単元に関するレディネス調査は以下の通りである。

質問項目（回答28人）	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
④日本の「政治」に興味がある	1人	7人	13人	7人
⑤ ④の何に興味がある？	<ul style="list-style-type: none"> ・世界情勢 ・消費税 ・日本の外交 ・新型コロナウイルス関連 ・少子化対策 ・税金が適正に使われているのか ・政治家の言動等 			
⑥日本の「選挙制度」を知っているか	はい：17人		いいえ：11人	
⑦有権者になったら 選挙に行く	12人	10人	4人	2人
⑧ ⑦の理由は？ ○ 肯定的意見 ● 否定的意見	<ul style="list-style-type: none"> ○行きたい（行ってみたい） ○義務だと思うから ○行かないと自分の意見が政治に反映されないから ○自分の信頼できる人が当選しないと嫌だから（信頼できない人に当選してほしくないから） ○自分の一票が役に立つと思うから ○自分の意思を形にしたいから ●政治に興味がないから ●若い候補者に投票したいが若い候補者が少ない ●必ず行くほど重要に思えないから ●「自分が投票してもいいのか」と思う 			
⑨今の日本の選挙の「課題」を知っているか	はい：7人		いいえ：21人	

⑩ ⑨のどんな「課題」を知っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が選挙に行かないこと ・有権者全体の投票率が低いこと ・若者の立候補者が少ないこと ・選挙での不正があること ・若い世代の投票率、選挙（政治）に関する関心が低いこと
--------------------	---

「日本の政治」に関しては興味・関心が低い生徒が多いが、中には社会全体の様々なことに関心がある生徒も少数だがいることがわかった。一方で、「有権者になったら選挙に行くか」という問いには、肯定的意見が多数となった。このことから、将来の政治に参加しようという意識は非常に高いことがわかった。

また、「今現在の選挙の課題」については、知っている生徒は少ないが、本時でも扱う「若年層を中心とした投票率の低さ」を指摘する生徒がいた。このレディネスを生かしながら学習活動を展開していく。

5 本時の展開（令和4年10月19日実施）

(1) ねらい

- ・資料を根拠として若者の投票率を上げるための方策と有権者としての姿勢について、自分の考えを表現したり、他者の意見を聞いたりしようとする。

（主体的に学習に取り組む態度）

- ・若者の投票率を上げるための方策と主体的に政治に参加する意義について、他者の意見と比較して対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などの視点に着目しながら多面的・多角的に考察し、自分の意見をワークシートに考えをまとめる。

（思考・判断・表現）

(2) 展開の構想

本時では、前時までに考えた自分の意見と、異なる意見をもつ生徒同士で交流させる。自分とは異なる意見を知り、自分と他者の考えを比較し、自分の考えの妥当性や改善案などを考えることを通して、「深い学び」に繋げたい。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 3	1 前時の学習内容を 確認する。	○パワーポイントで提示する。 選挙に行かない理由 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事があったから ・重要な用事があったから ・投票所が遠かったから ・選挙にあまり関心がないから ・支持する政党の候補者がいないから ・私一人が投票しなくても同じだから ・政治がわからない者が投票しないほうが良いと思ったから ・選挙によって政治は良くならないと思ったから 	
展開 ① 15	2 グループ内で自分の 意見を発表する。	○ワークシートに記入したものを発表させる。（1人3分）	態 根拠をもとに積極的に自分の考えを表現したり、他者の意見を聞き

		(1) 選挙に行かない理由として、1番問題だと思う理由 (2) (1)に対する具体的な対策や取組	たりしようとしている。
展開 ② 15	3 グループ内で投票率を上げるための具体的な取組みについて考える。	○グループ内で相談しながら、 ①国（行政）、②若者（自分たち）2つの立場から投票率を上げるための取組（姿勢）について考えさせる。	態 日本の選挙の課題と解決策について、①、②の立場で考えようとしている。
展開 ③ 10	4 他班の発表を聴き、考えを深める。	○各グループに発表させる。その後、ホワイトボードを黒板に貼る。	
まとめ 7	5 自分が有権者となったときに、選挙にどのように向き合うか、考えを書く。	○自分以外の様々な考えと比較し、改めて自分の考えをワークシートに記入させる。	思・判・表 自分の考えを記入している。（ワークシート）

(4) 評価

- ・資料を根拠として積極的に自分の考えを表現したり、他者の意見を聞いたりしながら日本の選挙の課題と解決策について理解しようとしたか。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・自分と他者の意見を比較し、主体的に政治に参加する意義について多面的・多角的に考察し、ワークシートに考えをまとめることができたか。（思考・判断・表現）

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（テーマに迫る手だてから）

① 学習内容を「比較・評価」する場面の設定

投票率を上げるため提案を、公民的な見方・考え方からメリット・デメリットで評価することにより、その提案の妥当性や具体性を他の様々な投票率を上げるための方策と比較しながら考えることができた。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・情報が入りやすくなって政治の② 関心を持つ人が増える ・市民の意見を聞ける①、③ ・双方向でのやり取りができる②、④ ・情報の拡散が早い② 	<ul style="list-style-type: none"> ・別の情報が流れてしまう② ・当該発信やアカウント削除しても、半永久的に拡散されている③ ・人間関係のトラブルが生じやすい①、③、④

生徒A：＜提案内容＞SNSを活用した選挙活動

② 意見交流する場面の設定

生徒全員が記入したワークシートを根拠にし、他者へ説明することができていた。交流する前後で考えを変更したり、他者の意見を組み合わせたりするなどの変化が見られた。様々な視点から考えることができ、「深い学び」につながったと考える。また、9割以上の生徒が意見交流を経て、民主的な選挙の実現のために「主体的に」どのように行動していくべきか、意思表示を記入することができており、主権者としての自覚を高められたのではないかと考える。

①若者の投票率を上げるため方策は、投票所の近くでイベントをしたり、屋台を出したりすること。また、SNSを利用すること。
 なぜなら、投票に行きやすい環境作りのために、かたくなり過ぎず"楽な気持ちで来てほしいから。SNSは情報が回るのが早く国民に伝えやすいから。

生徒B：＜提案内容＞投票所の増設
 話し合い後、「イベント化」「SNS活用」を組み合わせた。

(2) 研究テーマに関わって（評価）

評価項目	28人中
①資料を活用し「若者の投票率低下」の課題を捉え、その解決策について自ら調べた資料をもとに、自分の考えを書くことができた生徒が80%以上	27人（96%）
②自分の発表、他者の発表を振り返り、「調べた資料（データ）をもとに、考えを書くことができた」の項目で肯定的な振り返りをした生徒が80%以上	24人（85%）

①については、96%の生徒が調べた資料をもとに考えを書くことができていた。調べる際に教師からの資料は提示することなく、生徒が各自のタブレット端末を使用したことが要因であると考えられる。生徒が自ら様々な資料を調べる中で自然と方策について比較することができ、選んだ方策の理由をより具体的に書くことができた。

また、公民的な見方・考え方から再度、選んだ方策について評価することにより、方策の妥当性や具体性を考え、表現することができたと考えられる。

②については、85%の生徒が肯定的な回答をした。否定的な回答をした生徒の意見としては、「考えを書くことはできたが、友達の考えを聞いて考えが変わったから」「考えを書くことはできたが、友達に説明したり友達の考えを聞いたりしているうちに、友達の考えの方が良いと思ったから」という記述だった。否定的な回答をした生徒も、概ね自分の考えを書くことはできたようである。

この単元を振り返る選挙や政治のことに関心を持ったのは、
 日本以外の国の取組を調べ、日本と比べて投票率を上げ
 るのが若者にどう政治に興味を持たせるのが知ること
 だったので、話し合いの時に班員への提案から提案の
 1人1人へも聞けたのでみんながどう考えられているのかが分
 りました。自分の提案を班員へに説明し、必ずやるのだから、

生徒C：＜提案内容＞主権者教育の充実
 日本以外の取組を調べ、日本の取組と比較した。

(3) 今後の課題

今回の実践は、まだ実際に行ったことがない国政選挙の課題について、生徒が自分事として捉え、主体的に考えられるかということが課題であった。そのために、自分で資料を収集する中で自分事（将来、有権者となること）として考えさせるための手だてを用いた。生徒の振り返りを見ると、ほとんどの生徒が「投票することの意義」や「投票に行く」と記述しており、本時のねらいは達成できたと思う。今後、生徒が主権者となったとき、今回の実践が投票行動につながることを期待する。

課題は、資料をもとに自分の考えを書くことができた生徒が多かった一方で、調べたことをそのまま他者に伝えたり、公民的な見方・考え方を上手に活用できなかったりした生徒もいたことである。自分の考えを意見交流によってさらに深めたり、発展させたりすることができるように単元づくりやそれを実現させるための効果的なICT機器の活用をしていくことが解決策として考えられる。

また、生徒が単元を通じて獲得した知識や学びを、授業内や授業直後だけでなく、パフォーマンス課題やテストで表現できるようにすることも課題として挙げられる。授業内や単元の振り返りでは評価規準のA評価を満たす生徒が多く見られたが、少し時間が経った後のテストでは少なかった。本当の意味で生徒が授業での学びを生かし、表現するにはさらなる手立てが必要だと感じた。単元の構想段階から、どんな問いを出題するのか、なぜその問いを出題するのか、どのように出題するのか、そしてどのように評価するのかを具体的に計画することが大切であるとわかった。

<参考文献>

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』平成29年
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校社会）』令和2年
- ・工藤文三『平成29年改訂中学校教育課程実践講座 社会』ぎょうせい、2017
- ・総務省HP『衆議院議員選挙における年代別投票率の推移』
https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/（参照2023-01-17）
- ・公益財団法人 明るい選挙推進協会HP
<http://www.akaruisenkyo.or.jp/>（参照 2023-01-17）